

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第九主日礼拝のしおり

2021年7月25日

前奏：

招きのことば：詩編 145 編:1-9 節

【賛美 ダビデの詩】わたしの王、神よ、あなたをあがめ 世々限りなく御名をたたえます。
絶えることなくあなたをたたえ 世々限りなく御名を賛美します。
大いなる主、限りなく賛美される主 大きな御業は究めることもできません。
人々が、代々に御業をほめたたえ 力強い御業を告げ知らせますように。
あなたの輝き、栄光と威光 驚くべき御業の数々をわたしは歌います。
人々が恐るべき御力について語りますように。大きな御業をわたしは数え上げます。
人々が深い御恵みを語り継いで記念とし 救いの御業を喜び歌いますように。
主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちておられます。主はすべてのものに恵みを与え 造られたすべてのものを憐れんでくださいます。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたは私の本当の姿を示してくださいます。そして、イエス様によって私たちのすべての罪を赦し、新しい一週間も神様の子どもとして日々の生活の現場で私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：エペソの信徒への手紙 3章 14-21 節

こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどあるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 6章 1-21 節

その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しい

だけ分け与えられた。人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に來られる預言者である」と言った。イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。夕方になったので、弟子たちは湖畔へ下りて行った。そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカファルナウムに行こうとした。既に暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところには来ておられなかった。強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。二十五ないし三十スタディオンばかり漕ぎ出したころ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて來られるのを見て、彼らは恐れた。イエスは言われた。「わたしだ。恐れることはない。」そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると間もなく、舟は目指す地に着いた。

讚美歌 258 番

1. 貴(とうと)きみかみよ、悩みの淵(ふち)より 呼(よば)わるわが身を 顧(かえり)みたまえや
み赦(ゆる)し うけずば きびしき 審(さば)きに たれかは 堪(た)うべき
2. 世にある人みな 力(ちから)のかぎり に いそしみ 励(はげ)みて 正(ただ)しく 生(な)くとも
聖(せい)なる みかみの 恵(めぐみ)を うくるに たれかは 足(た)るべき
3. おのれの 業(わざ)には 少しも 頼(たよ)らず、ひたすら 恵(めぐみ)の 力(ちから)を たのみて
みことば 畏(かしこ)み 疑(うたが)うことなく、望(のぞ)みて ゆるがじ
4. わが罪(つみ) あやまち 限りもなけれど、底(そこ)いも知られぬ 恵(めぐみ)の御手(みで)もて
イスラエル人(ひと)を 救(す)いし みかみは、げに わが牧者(ぼくしや)ぞ アーメン

説教：「ほしだけ分け与えられた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

人生には、どうしようか、とか、もうだめだ、と思うときがありますね。もう我慢できない、でも自分ではどうにもならない、というときです。そんなとき、私のことを忘れないで、助けて下さる方がいらっしゃったらどんなにすばらしいでしょうか。今朝は、イエス様のお弟子たちの経験から、ヨハネの福音書6章のお話しです。

まずはピリポです。みなさんならどう答えますか。イエス様はお話を聞きにきたたくさんの人々を見て、弟子のひとりのピリポに「この人たちに食べさせるにはどこでパンを買えばよいだろうか」と尋ねました。ピリポは困りました。なぜならそこは町から離れた湖の向こう岸で、それも小高い山の上だったのです。自分たちはそんなつもりではありませんでしたから、何も持

ってきていません。パンを買おうにもお店もありません。パン屋さんがあってもお金がありません。お金があっても急にそんなたくさんのパンを焼いてもらえません。

そのあと夕方になって弟子たちだけで舟にのって湖を渡り、家に帰ろうとしたとき、嵐に会いました。岸からもう四キロか五キロほど漕ぎ出しています。十二人のお弟子の中にはかつてこの湖で漁師をしていたペテロとアンデレとヨハネとヤコブという、湖をよく知っている四人がいました。けれども彼らも暗闇の中で強い風にあおられて恐怖で震え上がっていました。

さて、パンをどこで買おうか、と言われたピリポは答えました。「イエス様、そんなお金は私たちにはありません。群衆のひとりひとりが少しだけ食べるにしても、これだけの人に食べてもらうには二百デナリ分のパンでも足りません。」ピリポは、イエス様、そんなこと無理です。二百万円くらいはかかります。今そんなお金をもっていません。困ってそう答えました。

困っているだけではなくて、何ができるか調べてみたらどうでしょうか。別のお弟子でペテロの兄弟のアンデレは、すぐに人々のところへ調べに行きました。イエス様のお話を聞くために五千世帯くらいの人たち、おそらく一万五千人とか二万人の人々が集まっていること、調査の結果ひとりの少年がいて麦パンと魚を持っていることがわかりました。そしてイエス様に「こんなたくさんの人には何の役にも立たないと思いますが、パン五つと魚二匹を持ち合わせている少年がいます」と報告をしました。

イエス様はこのあと群衆にゆったりすわってもらって、そのパンと魚をとって神様に感謝して手で割いてお弟子たちにみんなのところに運んでもらいました。みんな満腹になったうえで余ったパンを集めると十二のかごにいっぱいになりました。そんな馬鹿な、と思いますか。そこにいたみんなも驚いてしまいました。人々はこんなことができるのはイエス様が預言者に違いない、私たちの王様になってもらおう、と言いました。イエス様はそれを知ってみんなから姿を隠し、山の奥にはいついかれしました。

聖書はすばらしいメッセージを私たちに伝えてくれます。イエス様は普段あまり考えないことに気付かせてくれます。私たちの足りないことを教えてくれます。それは私たちを助けるためです。イエス様は光のように私たちの心の暗いところを照らします。そして私たちを光の中へ連れて行ってくださいます。自分の苦手なことを認めて、明るく生きるようにです。

神さまはあなたに人々の幸せをつくる優しく知恵ある人になってほしいと願っておられます。ピリポは自分がこの人々のお世話をするなんて考えてもいませんでした。しかしイエス様はあなたに人々をそんな風にみてほしいのです。私たちもできることなら同じ人生だから、人の役に立つ人になりたい、人を幸せにする、意味のある人生を送りたいと思います。

でも私たちには反対の心もあります。人を見ると、仲間外れにされないかな、と恐れます。取り残されて、寂しく生きていくのは避けたいと思います。傷つきたくないで人目を気にして生きています。私たちは孤独です。

誘惑にすぐ負けます。悪いことをしてしまいます。よいことができません。しまった、と後悔することが多いです。意志が弱くて、悪いことをしてしまいます。また、楽なほうへ行く誘惑に打ち勝つ力はありません。私たちは無力です。

また、私たちは自分中心です。ですから人が困っていることに気が付きません。たとえ気付いても、自分を犠牲にしてまでは助けません。やさしい言葉をかける勇気もありません。反対に、自分が困っているとき助けてくれる友達もあまりいません。困っていることを相談するとどう思われるかな、と心配です。こんなことで悩むなんて恥ずかしいな、と思ってなかなか言えません。愛がありません。

心は落ち着きません。がんばらなくてはいけないとわかっているけれど、がんばっても報われないかもしれないと不安です。もうそういうことは考えないようにしよう、とあきらめることはないですか。

聖書は語ります。神さまは私たちをすばらしく造ってくださった方です。神様と共に歩むことで人々と共に豊かな心で生きていくようになっていました。けれども神様を優先したら自分の幸せはない、とあって私たちは神さまよりも自分のことを考えてしまいます。人のことよりも自分の衝動を愛します。苦しい時は「神様、もしおられたら助けてください」と思いますが、それも自分が助かるための祈りです。神様から離れて、自分中心でわがままになっている私たちの状態が「罪」です。罪深い私の祈りは聴かれないかもしれない、と絶望します。

私たちは、イエス様のことばに接して、ほんとうの自分に気がきます。自己中心な、自分でもできない、罪深い姿に気付かせていただきます。神様から心離れて、目の前のこと、自分のことで精いっぱい、自分のプライドが傷つかないように必死で自分を守っている姿に気付かせてください。答えのない、余裕のない、神様への恐れも愛も信頼もない、自分を優先して人々への温かい心のない自分に気付かせてください。

聖書を注意深く読むと、ピリポに尋ねたイエス様は、ピリポを試みるために聞いたのであって、ご自分では何をしようとしているかご存じであったと書かれていますね。ピリポを困らせるためのことばではなかったのですね。イエス様のみわざを信じて、人々のお役にたつ人になってほしかったのですね。ピリポが人々にパンや魚をもっていったみんなに喜んでいただく人になるように、イエス様は願っていました。人々が満腹して満足するようにイエス様は願っていました。実際ピリポやアンデレヤ、十二人のお弟子たちはイエス様の手となり足となって喜んで人々に食べ物を持って、みんなが満腹になりました。

皆さん、イエス様はご自分で何をしようとしておられるかご存じでした。私たちが神さまのもとに帰ることができるためには、神様と仲直りをする必要があります。ごめんなさい、もうしません、と謝ることと、自分のこれまでの罪を償うことです。神さまは、わかった、もういいよ、あなたを赦します、さあ、帰っておいで、とおっしゃってくださいませ。でも、私た

中には神さまにあやまる素直な気持ちがありません。また神さまよりも自分のことを大切にする性質は自分の一部になっています。自分の罪を神さまにどう償っているかわかりません。本来は私たちが神様に謝って、自分の罪を償わなければならないのにできません。神様はそのような私たちをご存じでイエス様を送ってくださいました。イエス様は私たちが神さまと仲直りするためにしなければならぬことをすべてしてくださいました。ご自分は神さまなのに人になってくださって、神さまと人々を愛する真実な歩みをなされた上で、私たちのために十字架にかかって、そのいのちをもって私たちの罪の償いをしてくださいました。神様はあなたにおっしゃいます。「イエス様によってあなたを赦します、さあ帰っておいで」と。イエス様の名前によって洗礼にあずかるとき、神さまの赦しをいただき、神様の子どもとされて新しいいのちをいただきます。神様に感謝をしながら、今日自分に託された勉強や仕事や役割に打ち込んでみよう、今日出会わせていただく人々を大切に、自分のわがままな気持ちを抑えて、その人々が少しでも幸せになるように心を通わせて役にたっていこう、もっと上手に人に役に立てるようにもっと成長しよう。こんな生き生きしたいのちを与えてくださいます。

それでも人生にうまくいかないときがあります。逆風に悩まされるとき、不安にさいなまれるとき、孤独で、無力で、自分の愛のなさに落ち込むときもあります。弟子たちも小舟の中で恐れと不安でいっぱいでした。そこにイエス様は嵐を超えて、湖の上をあるいて「わたした、恐れることはない」と言ってあなたのところに来てくださって心をしずめてくださいます。イエス様だけはあなたを見捨てず、人にはできない助けを与え、神様に信頼する信仰を鍛えます。

今日、イエス様に信頼しましょう。そして自分中心の罪を赦されて、人の役に立つすばらしい人生、すばらしい一週間を送りましょう。来週またイエス様のみ言葉をここで聴きましょう。

人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。ヨハネ6:12

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌：284番 献金 献金感謝の祈り

1. 主のとうとき みことばは わが生命(いのち)の もといなり
たよるわれは 安けしや 世にまたなき みことばよ、 世にまたなき みことばよ
2. **ただ我のみ 汝(な)が神ぞ 恐れず行け ためらわで**
かつよき 我が腕(かいな) なれにそいて 離れじな、 なれにそいて 離れじな
3. 悩みの火は 燃え上がり 嘆きの河 溢るとも
恵みの手に 縋(すが)りなば 常に勝ちて 余りあらん、 常に勝ちて 余りあらん
4. **老いの坂を 登り行き 頭(かしら)の雪 積もるとも**

変わらぬ 我が 愛におり 安けくあれ 我が民よ、 安けくあれ 我が民よ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン

後奏